県政報告リーフレット〈討議資料〉 吉川ミーティング vol. 17

価値ある未来を、共に

卷行/編集 中原恵人事務所 〒342-0041 埼玉県吉川市保462-1 tel&fax 048-983-7886 巻行日 2014年秋冬 発行部数 5000部 mail:office@nakahara-shigeto.com/http://www.nakahara-shigeto.com/







吉川市における今後の選挙

市長選・・・平成27年2月下旬 県議選・・・平成27年4月上旬

「政治なんで…誰がやっても同じでしょ?」

- 本当にそうだろうか?
- 「サッカー日本代表の監督が誰になるか」
- それは4年後のWカップ、そして未来の日本のサッカーに大きな影響を与えるでしょ?
- それと同じ。
- 誰が吉川市の代表として政治を執り行うかは、 4年間の吉川市、そして未来の吉川市に大きな影響を与えるんだ。

「選挙に行っても…どうせ変わらないでしょ?」

前回H23年の市長選挙を分析してみると、今の吉川市の選挙事情はこんな感じ…

- H23年の人口 6.6万人
- 有権者 5.1万人

投票者 2万人

組織の意思に左右される投票者 1.3万人

自分の意思による投票者 0.7万人

結果、ほぼこの人数(1.3万人)で当選者が決まり、 6.6万人のうち1.3万人の投票、つまり、組織の意思で、 未来が決まってきたのです。

3.1+1.5万人 → 計4.6万人

棄権者の意思が反映されないのはもちろんのこと、未来を担う子供達1.5万人の意思も 反映されていません。つまり子供がいる人の棄権は、子供達の未来をも放棄することに なります。この部分の人達が動くことによって、街は大きく変わります。

「じゃあ…どうすればいい?」

- 1番大事なのは、政治家がもっと多くの声に耳を澄ませるべく、当選後も努力をするということ。 当選したから次の選挙までは安泰だ」などと思っているのなら論外。 1人でも多くの人に様々な手段でアクセスし、「現状を伝え」「自分の考えを伝え」 「意見を伺い」「共に未来を作り出す」この意識を政治家が高く持てるかどうかが、 その地域の政治の成熟度、投票率の上昇につながります。
- 支援組織に来賓で呼ばれて挨拶するだけが仕事だと思っている政治家、 またそうした支援組織が多ければ、当然地域は衰退してゆきます。
- 次に大事なのは、みんなが地域の政治や政治家にほんの少しで良いので、興味を持つことです。 仕事に向かう電車の中、育児の間のちょっとした時間、 そんな中でプログやフェイスブックなどで地元のニュースや政治家に注目して欲しいのです
- 「選挙の日だけ投票に行こう!」ではなく、「日頃から地元を少し気にかける」ことが大事です。

そこで生じたあなたの「意見」や「思い」は、決して小さな意見でありません。 またあなただけが感じているものでもありません。

あきらめてはいけません。

「あなたの思いは、必ず誰かの思いとつながり、未来を変えます、創ります

「興味が無いし、自分に関係無いじゃん?」

子供達には「未来へ意思を表明する機会」が与えられていません。 「吉川美南駅の建設や東口の開発」、「新庁舎の建設」、「給食センターの建設」 などの事業予算の合計は市の年間予算約180億円に匹敵し、また市債(市の借金)は 約150億円にものぼります。これらは当然、未来を担う子供たちへの負担になります。

そして、フロリデーションや予防接種問題はダイレクトに今の子供達に影響します 子供がいるお父さんお母さんの一票は、子供達の未来も決める一票なのです。

- また、若い人達はなかなか政治が身近に感じられないのが現実です。
- 無理もありません。小難しい政治用語に年の離れた政治家、見えないその活動。 まるで興味の無い音楽に対するように、関心が持てないのが現状でしょう。
- しかし、選挙の本質は「政治家や政党を選ぶ」のでは無く、 「自分達の今と未来を創りだす」ものなのです。
- 「音楽をやっているけれど発表する場が無い」「サッカーをやっているけどグランドが無い」 「いつも通る道が渋滞していて不便だ」「地元で働きたいけれどなかなか職が見つからない」など、 毎日の生活にある「不便さ、困っていること」がまさに街の問題であり、「政治」なのです。

誰かがいつのまにかうまく世の中を変えてくれる、などということはありません。 「投票した人達の意見のみで街が運営されてゆく」…が現実です。